

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中濃特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月25日(金) 10:00~12:00
- 3 開催場所 中濃特別支援学校 特別棟会議室
- 4 参加者
- |     |        |                      |
|-----|--------|----------------------|
| 会長  | 大谷 弘   | 各務原市手をつなぐ育成会理事長      |
| 副会長 | 伊藤 園美  | 岐阜県立ひまわりの丘第一学園園長     |
| 委員  | 朝倉 勝美  | せき防災の会代表             |
|     | 梅田 美保  | 美濃市ひばり園サービス管理責任者     |
|     | 太田 辰智  | 向山町自治会会長             |
|     | 無量小路共美 | 本校同窓会後援会長            |
|     | 雨谷 晴代  | 本校PTA会長              |
|     | 澤井 基光  | 岐阜県民生委員児童委員協議会会長(欠席) |
|     | 村田 泰弘  | 中部学院大学短期大学部幼児教育学科准教授 |
| 学校側 |        |                      |
|     | 大島 達史  | 校長                   |
|     | 平野 直子  | 副校長                  |
|     | 高井 和彦  | 事務部長                 |
|     | 遠藤 衣代  | 教頭                   |
|     | 長屋 陽子  | 小学部主事                |
|     | 大宮 薫   | 中学部主事                |
|     | 亀谷 真也  | 高等部主事                |
|     | 外村 良文  | 教務主任                 |

## 5 会議の概要(協議事項)

## (1) 令和6年度学校評価アンケートの集計結果と考察、今後の取組

- ・令和6年度学校評価アンケートの集計結果と考察について
- ・下半期取組の指針について

意見1: このアンケートの集計は、アンケート結果を今後の取組についても明記されているのでよい。

意見2: アンケートにおいて、回収率も大事だが、たとえ否定的な意見であってももらえることは、次に繋げるためにありがたいことである。

意見3: アンケート結果は、その時々々の家庭環境や親の気持ちに左右されることがあり、否定的な意見があっても学校側に課題が多いということではない。大切なのは、アンケート結果をしっかりと振り返ることである。

意見4: アンケートの項目を職員が認識し、この点で評価されているという意識を保つことが

大切である。また、職員がアンケートの結果から課題を整理し、取組を工夫することが大切である。

意見 5：保護者には、どの取組が「地域との連携」なのか判断することが難しい。

「地域と連携した取組」であることを見出を付けるなど明示して発信するとよい。

意見 6：「地域」というエリア定義はそれぞれだが、まずは学校の所在地となる近場の地域から交流を深め、その後交流地域の幅を広げていけるとよい。地域交流は「人とのつながり」が一番大切であり、挨拶運動などの取組が効果的である。また、「アクティブ Gメン」という行政が行う高齢者によるボランティア活動など、地域資源の活用も効果的である。

意見 7：地域交流において大切なことは、障がいの有無に関わらず共に取り組むことである。例えば、焼きそばを販売するとして、「売る側」と「買う側」のみの交流だけではなく、「一緒に作る」ということがあると発展的な相互理解に繋がる。一過性のイベントに納まらないよう工夫するとよい。

意見 8：作業製品販売では、生徒と地域が「販売」と「購入」のみの関係ではもったいない。製品製作のプロセスも合わせて発信していけると地域への理解はより深まる。

意見 9：企業としては、職場実習を受け入れることで従業員の特別支援学校への理解が進む。学校は、より多くの事業所に働きかけて受け入れ先を拡大していくとよい。

意見 10：高等部のみならず、小学部の保護者においても将来の我が子の暮らしについて漠然とした不安を抱いている。そういった不安を解消できるよう、保護者と徹底的に話をしたり、情報を共有したりして、コミュニケーションをとることが重要である。

◎学校評価アンケートの集計結果と分析・今後の改善の取組について、全員より賛同を得た。

## (2) 高等部作業製品販売価格について

### ・各作業班の製品とその価格設定について

意見 1：新製品の開発などの際、校内だけで決めるのではなく、校外の民間企業等と協力して新製品を立案、作成するなど、いわゆる「コラボ製品」といった取組ができるといいのではないかと。先生方にとっても、地域の異業種の方と関わる機会になる。

◎高等部の新しい作業製品の販売価格について、全員より承認を得た。

## 6 会議のまとめ

第 2 回学校運営協議会では、出席した全委員より、学校評価アンケートの集計結果と分析及び今後の改善の取組について賛同を得た。また、高等部作業学習作業製品の新製品の登録と価格について承認を得た。

今後は、学校評価アンケート結果の分析と本協議会での意見をもとに、よりよい学校運営のため全職員でより一層の努力をしていく。また、「地域と連携した取組」と「情報発信」の充実を図り、教育目標の実現に向けて取り組む。